

市民意見提出手続実施結果報告書

平成 31 年 1 月 25 日

市民の皆さんなどからいただいた御意見、これに対する市の考え方などを取りまとめましたので公表します。

施策等の名称	第 2 次さぬき市総合計画中期基本計画素案
実施期間	平成 30 年 12 月 20 日 ~ 平成 31 年 1 月 18 日
意見の件数	7 件
意見の内容	意見に対する市の考え方
<p>○市民アンケート調査結果「市に愛着を感じている人は多い」(12 ページ)が、「住みたくない」(13 ページ)の割合が増加していることについて</p> <p>市外の方にさぬき市のイメージを聞いてみると、地味で目立たないとよく言われます。私もさぬき市の良いところをもっとアピールすべきで、PR 不足だと思います。</p> <p>人口が減少傾向にあり、特に若年者の減少によるさぬき市の活力低下は大きな問題です。活力にあふれ、いきいきと暮らせるまちづくりを推進する必要があります。</p> <p>「市に愛着を感じている人は多い」が、「住みたくない」の割合が増加しているというのは、住みたいが不便だから住めないということかもしれません。</p> <p>便利な生活の条件の一つに、住民サービスの充実があると思います。公共サービスには赤字でも必要なものも多く、採算面だけで計れない効果もあります。利用者が少ないか</p>	<p>「市の情報発信や PR が不足している」ことについては、計画素案の作成を進める過程において開催した「市民ワークショップ」の際にも、「若者を意識したインスタグラムやツイッター等の SNS を活用した情報発信」に関し多くの御意見をいただいたところであり、更に本市の魅力を効果的に発信できるよう、PR 方法等の工夫に取り組んでまいります。</p> <p>また、「住民サービスの充実」については、御意見のように採算面だけでは計れない効果に着目する必要があるものの、持続可能性との両立や他の施策とのバランスを図る必要もあることなどから、人口減少や若者の流出に歯止めをかけることを重要課題として念頭に置きながら、真に必要な質の高い住民サービスの在り方について、今後も検討を進めてまいります。</p>

<p>ら、赤字だから、だけでなく、利用者を増やす工夫や努力も必要だと思います。財政の健全化が重要課題であることは十分承知していますが、住民サービスの低下は、人口減少、特に若年者の流出に大きく影響していると思います。</p>	
<p>○４２ページの「５観光の振興（２）観光PRの強化」について</p> <p>「さぬき市PR大使」（仮称）を有名な方に委嘱してはどうでしょうか。</p> <p>例えば、平賀源内のエレキテルに因んで「エレキテル」とか、お父さんがさぬき市出身の「中川家」とか。</p> <p>これは、さぬき市のPRになるとともに、さぬき市民が市に愛着を感じたり、元気が出る契機にもなると考えます。それほど大きな経費もかからず、効果は大きいと思いますが、いかがでしょうか。</p>	<p>過去には、市の魅力を全国に発信していただくことを目的に、本市の出身者や本市にゆかりのある著名な方を「ふるさと大使」として委嘱した経緯もありますが、現在では、市民の方々と協働したまちづくりを推進する施策の一環として、市民の皆さん自らがまちの魅力や地域資源等を積極的に全国に発信していただけるよう「PRサポーター登録制度」を実施し、その活動に対して支援を行っているところです。</p> <p>御提案の「PR大使」につきましても、本市の魅力を発信し、知名度向上につながる有効な手段であることから、これまでの取組を検証しつつ、市の効果的なPR方策の一つとして参考にさせていただきます。</p>

○45ページの「7定住促進対策」について

「若い人が住みたくなるさぬき市」をめざす必要があります。そのためには、

① 「若者の意見や要望を聞く会」の開催

市政に若い人の意見を取り入れるために「若者の意見や要望を聞く会」を定期的で開催する。委員会を作って話し合うだけでなく、市民が誰でも気軽に参加できる会を開くことにより、市民としての自覚や市政への参加意識が高まる。

② 広い宅地（庭付き・畑付き）の分譲

便利な地域でも混み合った狭い宅地は嫌だという人は多い。さぬき市の自然を楽しみ、子育てにも適した庭や家庭菜園などが取れる広い分譲地があればと思う。

③ 結婚・出産・定住のお祝い金制度の導入・充実

④ 便利に生活できる環境の整備

日常生活（学校などの公共施設、買い物、病院など）の利便性を向上させる。若い人は、学校が遠いと住まないと言う。学校の統合はやむを得なくても、通学に不便のない十分な対策は必要だと思う。

① 計画素案の作成を進める過程で、市民の皆さんの御意見やアイデアを反映させるための「市民ワークショップ」を開催したところ、多くの若い世代の方々の参加をいただくとともに、ワークショップの継続的な開催について御要望もいただいたところです。計画素案では、重点プロジェクトの一つである「協働のまちづくりプロジェクト」において、「市民参画の推進」を掲げており、市民の皆さんが気軽にまちづくりに参画できる機会が提供できるよう努めてまいります。

② 宅地分譲は、本来民間が担う事業であると考えられますが、市としても現在行っている「空き家バンク制度」を活用し、庭付きや家庭菜園ができる空き家の提供等ができるよう、内容の充実に努めてまいります。

③ 現在、結婚後の定住や市内での住宅取得、三世同居等のための転入を支援する各種の奨励・補助制度を設けて移住・定住の促進に取り組んでいますが、今後はこうした制度の効果の検証を行いながら、より効果的な取組となるよう検討を進めてまいります。

④ 学校の統廃合に伴い、遠距離通学となる児童生徒に対しては、スクールバスによる通学支援を行っています。また、市民の方々の日常生活における交通手段の確保のため、コミュニティバスを運行していますが、より利便性の向上を図るため、今後、コミュニティバスを含めた新たな公共交通の在り方について検討を進めてまいります。

○55ページの「11公共交通網の充実(1)利便性の高い公共交通手段の提供、(2)公共交通利用促進対策」コミュニティバスについて

利用しやすいダイヤや経路になるよう改善し、利用を促進する。

1 他の公共交通機関(JR、ことでん、大川バス)との便利な接続を考慮したダイヤにする。現状は、JR志度駅、造田駅、津田駅等での接続が悪いため、コミュニティバスを利用しにくい。例えば造田駅でコミュニティバスからJRにすぐ乗り換えても志度方面へ行けたら、利便性が向上する。

2 高校生が通学に利用できるダイヤにする。さぬき市内の津田高校、志度高校、石田高校、寒川高校の生徒が通学に利用できる時間帯に設定する。現状では、朝の登校にちょうど良い時刻の便がない路線がある。

3 PRと利用促進のために、小・中学校の子どもたちに無料体験乗車してもらおう。お試し乗車券(無料)を配布したり、クラス単位で乗車するなど。

現在運行しているコミュニティバスについては、2019年度、2020年度の2年間をかけて、ルートやダイヤを含めた大幅な運行形態の見直しに取り組む方針としています。

御意見のような他の公共交通機関との接続性の向上、高校生の通学利用の促進、子どもたちが公共交通機関に親しめるような機会づくりについてもさぬき市地域公共交通会議の中で議論してまいります。

○62ページの「14子育て支援の充実(4)子育て支援サービスの充実」について

- 1 周辺市町の子育て支援サービスの施策を参考に、周辺市町と比較して遜色のない、特色ある施策をお願いしたい。
- 2 豊かな自然や暖かな人のつながりなど、さぬき市が子育ての環境に優れていることを積極的にPRする必要がある。
- 3 特に温かな人のつながりはさぬき市の長所であり、子育てについて周りに相談しやすい環境を整える。市行政による相談だけでなく、例えば、子育て世代の人が気軽に集まって話ができるよう、公民館でカフェを開催するなど、さぬき市ならではの特色を出す。

人口減少が進む中、本市においても子育て支援の充実を重要課題として捉え、周辺市町とも連携・協力を図りながら、地域全体で子育てを応援していく体制づくりに努めています。

出生祝金や子育て支援券のような独自の金銭給付は、現在のところ実施していませんが、子ども医療費の助成等により子育て世代の経済的負担の軽減を図っているほか、市民病院における病児・病後児保育や小児夜間急病診察室の開設、子育てを相互援助するファミリーサポートセンター事業の実施などにより、安心して子どもを育てられる環境づくりに取り組んでいます。

また、身近な場所で気軽に子育て相談ができる場所として、児童館5館、地域子育て支援センター4か所を開設しているほか、子育てサロンや託児ボランティア、親子カフェなども定期的に開催されており、地域ぐるみの子育て支援ネットワークも広がりつつあるところです。

さらに、平成31年5月開庁の寒川庁舎2階に子育て世代包括支援センターの開所を予定しており、妊娠期から子育て期にわたるまで、これまで以上に切れ目のない、きめ細かな支援に取り組むとともに、子育て支援情報をわかりやすくまとめた子育てハンドブックや、スマートフォンを利用した子育て支援アプリによる情報発信などにより、積極的なPRにも努めてまいります。

<p>○69ページの「(1) 住民主体の支え合いによるまちづくり」について</p> <p>温かな人のつながりは、さぬき市の長所です。人のつながりによるコミュニティの充実を図るため、市民が誰でも気軽に集まって、話ができる機会(場所)を定期的に提供してはどうでしょうか。公民館でカフェ(または喫茶店に民間委託)などで良いと思います。</p>	<p>御意見のとおり、人と人のつながりは、地域コミュニティを形成するうえで、欠かせないものです。</p> <p>いただいた御意見も参考にさせていただきながら、今後、自治会集会場や公的施設の開放等も含めて、住民が主体的に気軽に集まれる場所及び機会の提供について、関係機関と検討してまいります。</p>
<p>○72ページの「19 地域医療の充実」について</p> <p>市民病院の利用を促進することが、市民の健康増進のためにも、経営面からも必要であると思います。</p> <p>市民の中にも市民病院を利用したことがない、行ったことがないという人も多いので、PRのために市民見学会を実施してはどうでしょうか。</p>	<p>いただいた御意見のような考えの下、今年度、病院祭を開催したところです。</p> <p>この病院祭は、地域住民の皆さんに対し、最新の医療や健康増進に向けた医学的な情報を発信することで、より健康に対する意識を高めていただくなど、健康づくりの向上に貢献するとともに、市民病院の役割や現状の医療提供体制等を紹介することで、より市民病院を知っていただき、地域に親しまれる病院となれるよう企画したものです。開催に当たっては、病院ホームページや院内掲示による案内のほか、チラシをさぬき市内においては全戸配布し、近隣の市町においては公共施設に設置をお願いしました。</p> <p>初めての試みではありましたが、来院者は251名に上り、一定の成果が挙げられたと考えており、次年度以降も継続して開催していく予定です。</p>

施策等の案についてのお問い合わせ先

さぬき市役所総務部政策課
住所：〒769-2195 さぬき市志度 5385-8
電話：087-894-1112 ファクシミリ：087-894-4440
電子メール：seisaku@city.sanuki.lg.jp